

キリスト教倫理とは

Overview

- ・ キリスト教倫理の形成
- ・ キリスト教倫理の価値基準
- ・ 誰のための倫理か？
- ・ 科学技術時代の倫理

キリスト教倫理の形成

- ・ 信仰と倫理
- ・ 固有の社会的・文化的コンテキストにおける信仰的応答
- ・ パウロを事例として考える
- ・ 偶像に供えられた肉についての食事規定をめぐる倫理的葛藤（新約聖書「コリントの信徒への手紙一」8章）
- ・ 「その兄弟のためにもキリストが死んでくださったのです」（8:11）
- ・ 行為の是非が問題となっているのではない。

偶像に供えられた肉（1コリ8:8-13）

わたしたちを神のもとに導くのは、食物ではありません。食べないからといって、何かを失うわけではなく、食べたからといって、何かを得るわけではありません。ただ、あなたがたのこの自由な態度が、弱い人々を罪に誘うことにならないように、気をつけなさい。知識を持っているあなたが偶像の神殿で食事の席に着いているのを、だれかが見ると、その人は弱いのに、その良心が強められて、偶像に供えられたものを食べるようにならないだろうか。そうすると、あなたの知識によって、**弱い人が滅びてしまいます。その兄弟のためにもキリストが死んでくださったのです。**このようにあなたがたが、兄弟たちに対して罪を犯し、彼らの弱い良心を傷つけるのは、キリストに対して罪を犯すことなのです。それだから、食物のことがわたしの兄弟をつまずかせるくらいなら、兄弟をつまずかせないために、わたしは今後決して肉を口にしません。

キリスト教倫理の価値基準

ここでは以下のものを事例として取り上げる。

- (1) 史的イエス
- (2) モーセの十戒
- (3) 黄金律



レンブラント作「十戒」

(1) 史的イエス

- ・ イエスはどのような人物であったか？
- ・ 「だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい」（マタイ5:39）
- ・ 「群衆はその教えに非常に驚いた」（マタイ7:28）
- ・ 「見失った羊」のたとえ（ルカ15:1-7）
- ・ イエスの倫理と共同体の倫理

徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言いだした。そこで、イエスは次のたとえを話された。

「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけて出すまで捜し回らないだろうか。そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。言うておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」（「ルカによる福音書」15章1-7節）

(2) モーセの十戒 (出エ20:1-17)

- ・ ヤハウェ以外の神々を信仰してはならない
- ・ 偶像崇拜をしてはならない
- ・ 神の名をみだりに唱えてはならない
- ・ 安息日を守らなくてはならない
- ・ 父と母を敬え
- ・ 殺してはならない
- ・ 姦淫してはならない
- ・ 盗んではならない
- ・ 偽証してはならない
- ・ 隣人の財産や妻を欲してはならない

(3) 黄金律

- ・ 「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」 (マタイ 7:12、ルカ6:31)
- ・ 「人にしてもらいたくないことは、人にもするな」 (『論語』他)

誰のための倫理か？

- ・ 古代世界においては、倫理・道徳は王や国家が管理していた。
- ・ モーセの出エジプトに象徴される一神教的伝統においては、倫理や正義を王や国家から引き離し、神の権威の元に置く。
- ・ 一神教においては倫理的な問いかけ（正義のあり方）が内在化され、伝統の重要な一部になっている。
- ・ 近代国家の成立と共に、忠誠の中心（国家への忠誠と神への忠誠）が二重化し、時として、対立する（→アイデンティティ・クライシス）。

キリスト教

良心

世俗社会 (啓蒙主義的価値)

科学技術時代の倫理

- ・ 倫理とは？
- ・ 選択可能なものの中から（当事者にとって）最善のものを選択する方法を示す。
- ・ 選択の帰結を示す（リスク計算）。
- ・ 可能な限りの選択可能性を示さなければ、結果的に、誘導・強制したのと同じになる（**パターナリズム**の危険性）

技術と倫理

- ・ 潜在的マイナス効果を発現させないための倫理が必要。
- ・ 潜在的プラス効果を妨害させないための倫理が必要。
- ・ 例：原子力エネルギーをめぐる倫理的問い

3.11とドイツの決断

- ・ エネルギーの安全供給に関する倫理委員会
(2011年4月に作業を開始)
- ・ 報告書(5月30日)「キリスト教の伝統とヨーロッパ文化の特性に基づき、我々は自然環境を自分の目的のために破壊せず、将来の世代のために保護するという特別な義務と責任を持っている」
- ・ 6月6日、原発の全廃(2022年までに)を閣議決定



なぜエネルギーが必要か？

- ・ エントロピー増大の法則(熱力学の第二法則)
- ・ 放っておけば、エントロピー(乱雑さの程度)は大きくなっていく。
- ・ 生物も例外ではない。食物の形で低エントロピーの物質を体内に取り込み、高エントロピーの老廃物を排出することによって、身体内のエントロピー状態を維持している。分解と合成の流れを維持。
- ・ 仏教：苦の原因としての**生老病死**